

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q001 BL3-003

取引主体・法人・代理 / 法人 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：株式会社などの法人は契約主体となる。
要点：法人

Q002 BL3-004

取引主体・法人・代理 / 代表 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
代表者が会社名で契約しても、効果は常に代表者個人に帰属する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：代表取締役などは会社を代表する機関である。
要点：代表

Q003 BL3-017

取引主体・法人・代理 / 法人格否認 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法人格が濫用される場合、例外的に法人格否認が問題となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：会社と個人の分離が濫用されると、例外的な責任追及が問題となる。
要点：法人格否認

Q004 BL3-031

取引主体・法人・代理 / 代理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
代理人が権限内で本人のために意思表示をすると、効果は本人に帰属する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：代理は本人・代理人・相手方の三面関係で理解する。
要点：代理

Q005 BL3-044

取引主体・法人・代理 / 権利能力 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
自然人は成年に達しなければ権利能力を取得しない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：権利能力は権利義務の主体となる資格である。
要点：権利能力

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q006 BL3-045

取引主体・法人・代理 / 顕名 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
代理では、本人のためにすることを示す顕名が原則として必要である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：顕名がない場合は代理人自身の行為と扱われることがある。
要点：顕名

Q007 BL3-058

取引主体・法人・代理 / 意思能力 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
意思能力を欠いていても契約書に署名すれば常に有効である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：意思能力は行為の結果を判断できる能力をいう。
要点：意思能力

Q008 BL3-059

取引主体・法人・代理 / 無権代理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
代理権のない者がした代理行為は、本人が追認しなければ原則として本人に効力を生じない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：本人の追認の有無が重要である。
要点：無権代理

Q009 BL3-072

取引主体・法人・代理 / 行為能力 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
制限行為能力者がした契約は、常に最初から絶対に有効である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：未成年者などの行為は取消しの対象となる場合がある。
要点：行為能力

Q010 BL3-073

取引主体・法人・代理 / 表見代理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：成立には外観・帰責性・相手方の善意無過失などが問題となる。
要点：表見代理

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q011 BL3-086

取引主体・法人・代理 / 未成年者 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
未成年者がした契約は、どのような場合も取り消すことができない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：単に権利を得るだけの行為など例外もある。

要点：未成年者

Q012 BL3-087

取引主体・法人・代理 / 復代理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：復代理人は本人の代理人として行為する。

要点：復代理

Q013 BL3-100

取引主体・法人・代理 / 法人 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法人は実体がないため、契約の当事者になることはできない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：株式会社などの法人は契約主体となる。

要点：法人

Q014 BL3-101

取引主体・法人・代理 / 代表 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：代表取締役などは会社を代表する機関である。

要点：代表

Q015 BL3-114

取引主体・法人・代理 / 法人格否認 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
株式会社では、どのような濫用があっても法人格否認はあり得ない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：会社と個人の分離が濫用されると、例外的な責任追及が問題となる。

要点：法人格否認

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q016 BL3-128

取引主体・法人・代理 / 代理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
代理人が契約すると、効果は常に代理人本人にだけ帰属する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：代理は本人・代理人・相手方の三面関係で理解する。

要点：代理

Q017 BL3-141

取引主体・法人・代理 / 権利能力 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
自然人は出生により権利能力を取得する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：権利能力は権利義務の主体となる資格である。

要点：権利能力

Q018 BL3-142

取引主体・法人・代理 / 顕名 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
代理では、本人名を一切示さなくても常に本人に効果が帰属する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：顕名がない場合は代理人自身の行為と扱われることがある。

要点：顕名

Q019 BL3-155

取引主体・法人・代理 / 意思能力 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
意思能力を欠く状態で行った法律行為は、原則として無効となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：意思能力は行為の結果を判断できる能力をいう。

要点：意思能力

Q020 BL3-156

取引主体・法人・代理 / 無権代理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
無権代理行為は、本人の意思に関係なく必ず有効となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：本人の追認の有無が重要である。

要点：無権代理

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q021 BL3-169

取引主体・法人・代理 / 行為能力 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：未成年者などの行為は取消しの対象となる場合がある。
要点：行為能力

Q022 BL3-170

取引主体・法人・代理 / 表見代理 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
表見代理は、相手方が悪意でも常に成立する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：成立には外観・帰責性・相手方の善意無過失などが問題となる。
要点：表見代理

Q023 BL3-172

取引主体・法人・代理 / 権利能力 / 形式：2択

次のうち、「権利能力」について正しい説明はどちらか。
1. 使用者は、労働者に何時間でも無制限に働かせることができる。
2. 自然人は出生により権利能力を取得する。

答え・解説

正答：自然人は出生により権利能力を取得する。
超簡単な解説：権利能力は権利義務の主体となる資格である。
要点：権利能力

Q024 BL3-173

取引主体・法人・代理 / 顕名 / 形式：2択

次のうち、「顕名」について正しい説明はどちらか。
1. 代理では、本人のためにすることを示す顕名が原則として必要である。
2. 労働者が同意すれば、最低賃金を下回る賃金契約は常に有効である。

答え・解説

正答：代理では、本人のためにすることを示す顕名が原則として必要である。
超簡単な解説：顕名がない場合は代理人自身の行為と扱われることがある。
要点：顕名

Q025 BL3-186

取引主体・法人・代理 / 意思能力 / 形式：2択

次のうち、「意思能力」について正しい説明はどちらか。
1. 商標権は、発明そのものを保護する権利である。
2. 意思能力を欠く状態で行った法律行為は、原則として無効となる。

答え・解説

正答：意思能力を欠く状態で行った法律行為は、原則として無効となる。
超簡単な解説：意思能力は行為の結果を判断できる能力をいう。
要点：意思能力

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q026 BL3-187

取引主体・法人・代理 / 無権代理 / 形式：2択

次のうち、「無権代理」について正しい説明はどちらか。

1. 代理権のない者がした代理行為は、本人が追認しなければ原則として本人に効力を生じない。
2. 業務上の災害でも、労災保険は一切関係しない。

答え・解説

正答：代理権のない者がした代理行為は、本人が追認しなければ原則として本人に効力を生じない。

超簡単な解説：本人の追認の有無が重要である。

要点：無権代理

Q027 BL3-200

取引主体・法人・代理 / 行為能力 / 形式：2択

次のうち、「行為能力」について正しい説明はどちらか。

1. 法律上の善意は、道徳的に親切であることをいう。
2. 制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。

答え・解説

正答：制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。

超簡単な解説：未成年者などの行為は取消しの対象となる場合がある。

要点：行為能力

Q028 BL3-201

取引主体・法人・代理 / 表見代理 / 形式：2択

次のうち、「表見代理」について正しい説明はどちらか。

1. 表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。
2. 定型約款は、どのような内容でも相手方を必ず拘束する。

答え・解説

正答：表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。

超簡単な解説：成立には外観・帰責性・相手方の善意無過失などが問題となる。

要点：表見代理

Q029 BL3-214

取引主体・法人・代理 / 未成年者 / 形式：2択

次のうち、「未成年者」について正しい説明はどちらか。

1. 復代理人は、本人とは一切法律関係を持たない。
2. 未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。

答え・解説

正答：未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。

超簡単な解説：単に権利を得るだけの行為など例外もある。

要点：未成年者

Q030 BL3-215

取引主体・法人・代理 / 復代理 / 形式：2択

次のうち、「復代理」について正しい説明はどちらか。

1. 代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。
2. 強行規定は、当事者が合意すれば自由に排除できる。

答え・解説

正答：代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。

超簡単な解説：復代理人は本人の代理人として行為する。

要点：復代理

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q031 BL3-228

取引主体・法人・代理 / 法人 / 形式：2択

次のうち、「法人」について正しい説明はどちらか。

1. 定款は、会社設立後には一切意味を持たない。
2. 法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。

答え・解説

正答：法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。

超簡単な解説：株式会社などの法人は契約主体となる。

要点：法人

Q032 BL3-229

取引主体・法人・代理 / 代表 / 形式：2択

次のうち、「代表」について正しい説明はどちらか。

1. 会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。
2. 独占禁止法は、すべての競争を禁止する法律である。

答え・解説

正答：会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。

超簡単な解説：代表取締役などは会社を代表する機関である。

要点：代表

Q033 BL3-242

取引主体・法人・代理 / 法人格否認 / 形式：2択

次のうち、「法人格否認」について正しい説明はどちらか。

1. 定型約款は、どのような内容でも相手方を必ず拘束する。
2. 法人格が濫用される場合、例外的に法人格否認が問題となる。

答え・解説

正答：法人格が濫用される場合、例外的に法人格否認が問題となる。

超簡単な解説：会社と個人の分離が濫用されると、例外的な責任追及が問題となる。

要点：法人格否認

Q034 BL3-256

取引主体・法人・代理 / 代理 / 形式：2択

次のうち、「代理」について正しい説明はどちらか。

1. 解除すると、契約違反の有無にかかわらず損害賠償請求は常に禁止される。
2. 代理人が権限内で本人のために意思表示をすると、効果は本人に帰属する。

答え・解説

正答：代理人が権限内で本人のために意思表示をすると、効果は本人に帰属する。

超簡単な解説：代理は本人・代理人・相手方の三面関係で理解する。

要点：代理

Q035 BL3-269

取引主体・法人・代理 / 権利能力 / 形式：2択

次のうち、「権利能力」について正しい説明はどちらか。

1. 自然人は出生により権利能力を取得する。
2. 株主総会は、株式会社では存在してはならない機関である。

答え・解説

正答：自然人は出生により権利能力を取得する。

超簡単な解説：権利能力は権利義務の主体となる資格である。

要点：権利能力

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q036 BL3-270

取引主体・法人・代理 / 顕名 / 形式：2択

次のうち、「顕名」について正しい説明はどちらか。

1. 法人は実体がないため、契約の当事者になることはできない。
2. 代理では、本人のためにすることを示す顕名が原則として必要である。

答え・解説

正答：代理では、本人のためにすることを示す顕名が原則として必要である。

超簡単な解説：顕名がない場合は代理人自身の行為と扱われることがある。

要点：顕名

Q037 BL3-283

取引主体・法人・代理 / 意思能力 / 形式：2択

次のうち、「意思能力」について正しい説明はどちらか。

1. 意思能力を欠く状態で行った法律行為は、原則として無効となる。
2. 詐欺による契約でも、被害者は常に取り消せない。

答え・解説

正答：意思能力を欠く状態で行った法律行為は、原則として無効となる。

超簡単な解説：意思能力は行為の結果を判断できる能力をいう。

要点：意思能力

Q038 BL3-284

取引主体・法人・代理 / 無権代理 / 形式：2択

次のうち、「無権代理」について正しい説明はどちらか。

1. 使用者は、理由なくいつでも自由に解雇できる。
2. 代理権のない者がした代理行為は、本人が追認しなければ原則として本人に効力を生じない。

答え・解説

正答：代理権のない者がした代理行為は、本人が追認しなければ原則として本人に効力を生じない。

超簡単な解説：本人の追認の有無が重要である。

要点：無権代理

Q039 BL3-297

取引主体・法人・代理 / 行為能力 / 形式：2択

次のうち、「行為能力」について正しい説明はどちらか。

1. 制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。
2. 任意規定は、当事者の合意によって変更できない。

答え・解説

正答：制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。

超簡単な解説：未成年者などの行為は取消しの対象となる場合がある。

要点：行為能力

Q040 BL3-298

取引主体・法人・代理 / 表見代理 / 形式：2択

次のうち、「表見代理」について正しい説明はどちらか。

1. 制限行為能力者がした契約は、常に最初から絶対に有効である。
2. 表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。

答え・解説

正答：表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。

超簡単な解説：成立には外観・帰責性・相手方の善意無過失などが問題となる。

要点：表見代理

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q041 BL3-311

取引主体・法人・代理 / 未成年者 / 形式：2択

次のうち、「未成年者」について正しい説明はどちらか。

1. 未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。
2. 消費者契約法は、事業者同士の国際売買だけを対象とする法律である。

答え・解説

正答：未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。

超簡単な解説：単に権利を得るだけの行為など例外もある。

要点：未成年者

Q042 BL3-312

取引主体・法人・代理 / 復代理 / 形式：2択

次のうち、「復代理」について正しい説明はどちらか。

1. 承諾は、申込みと内容が違っても常に契約を成立させる。
2. 代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。

答え・解説

正答：代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。

超簡単な解説：復代理人は本人の代理人として行為する。

要点：復代理

Q043 BL3-325

取引主体・法人・代理 / 法人 / 形式：2択

次のうち、「法人」について正しい説明はどちらか。

1. 法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。
2. 不公正な取引方法は、独占禁止法上まったく問題にならない。

答え・解説

正答：法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。

超簡単な解説：株式会社などの法人は契約主体となる。

要点：法人

Q044 BL3-326

取引主体・法人・代理 / 代表 / 形式：2択

次のうち、「代表」について正しい説明はどちらか。

1. 契約不適合があっても、買主は常に一切の救済を受けられない。
2. 会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。

答え・解説

正答：会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。

超簡単な解説：代表取締役などは会社を代表する機関である。

要点：代表

Q045 BL3-337

取引主体・法人・代理 / 行為能力 / 形式：4択

次のうち、「行為能力」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 監査役は、会社の営業担当者を意味する。
2. 制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。
3. 株主は、会社債務について常に無限責任を負う。
4. 過失とは、故意に相手を害する意思だけをいう。

答え・解説

正答：制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。

超簡単な解説：未成年者などの行為は取消しの対象となる場合がある。

要点：行為能力

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q046 BL3-338

取引主体・法人・代理 / 表見代理 / 形式：4択

次のうち、「表見代理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 意思能力を欠いていても契約書に署名すれば常に有効である。
2. 危険負担は、契約関係では一切問題とならない。
3. 表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。
4. 法人は実体がないため、契約の当事者になることはできない。

答え・解説

正答：表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。
超簡単な解説：成立には外観・帰責性・相手方の善意無過失などが問題となる。

要点：表見代理

Q047 BL3-351

取引主体・法人・代理 / 未成年者 / 形式：4択

次のうち、「未成年者」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 強制執行は、口頭で請求しただけで必ず開始できる。
2. 履行不能の場合も、必ず履行遅滞だけが成立する。
3. 未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。
4. 取締役は、会社法上どの会社にも絶対に不要である。

答え・解説

正答：未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。

超簡単な解説：単に権利を得るだけの行為など例外もある。

要点：未成年者

Q048 BL3-352

取引主体・法人・代理 / 復代理 / 形式：4択

次のうち、「復代理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 株主総会は、株式会社では存在してはならない機関である。
2. 契約書やメールは、紛争時の証拠として一切利用できない。
3. 代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。
4. 債務を履行しなくても、契約責任は一切発生しない。

答え・解説

正答：代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。

超簡単な解説：復代理人は本人の代理人として行為する。

要点：復代理

Q049 BL3-365

取引主体・法人・代理 / 法人 / 形式：4択

次のうち、「法人」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。
2. 一度成立した契約は、当事者全員が合意しても解除できない。
3. 連帯保証人は、催告の抗弁権と検索の抗弁権を常に行使できる。
4. 業務上の災害でも、労災保険は一切関係しない。

答え・解説

正答：法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。

超簡単な解説：株式会社などの法人は契約主体となる。

要点：法人

Q050 BL3-366

取引主体・法人・代理 / 代表 / 形式：4択

次のうち、「代表」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。
2. 使用者は、労働条件を一切明示しなくてもよい。
3. 一度成立した契約は、当事者全員が合意しても解除できない。
4. 相殺は、金銭債権同士でも絶対にできない。

答え・解説

正答：会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。

超簡単な解説：代表取締役などは会社を代表する機関である。

要点：代表

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q051 BL3-379

取引主体・法人・代理 / 法人格否認 / 形式：4択

次のうち、「法人格否認」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 任意規定は、当事者の合意によって変更できない。
2. 承諾は、申込みと内容が違っていても常に契約を成立させる。
3. 法人格が濫用される場合、例外的に法人格否認が問題となる。
4. 特許権は、単なる商号だけを保護する権利である。

答え・解説

正答：法人格が濫用される場合、例外的に法人格否認が問題となる。
超簡単な解説：会社と個人の分離が濫用されると、例外的な責任追及が問題となる。

要点：法人格否認

Q052 BL3-393

取引主体・法人・代理 / 代理 / 形式：4択

次のうち、「代理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 錯誤があっても、契約は常に絶対に取り消せない。
2. 代理人が権限内で本人のために意思表示をすると、効果は本人に帰属する。
3. 著作権は、単なるアイデアそのものを常に保護する。
4. 契約書は、常に法律より優先して適用される。

答え・解説

正答：代理人が権限内で本人のために意思表示をすると、効果は本人に帰属する。

超簡単な解説：代理は本人・代理人・相手方の三面関係で理解する。

要点：代理

Q053 BL3-406

取引主体・法人・代理 / 権利能力 / 形式：4択

次のうち、「権利能力」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 自然人は出生により権利能力を取得する。
2. 復代理人は、本人とは一切法律関係を持たない。
3. ADRは、裁判所の判決だけを意味する。
4. 下請法は、消費者の家族関係だけを定める法律である。

答え・解説

正答：自然人は出生により権利能力を取得する。

超簡単な解説：権利能力は権利義務の主体となる資格である。

要点：権利能力

Q054 BL3-407

取引主体・法人・代理 / 顕名 / 形式：4択

次のうち、「顕名」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 自然人は成年に達しなければ権利能力を取得しない。
2. 代理では、本人のためにすることを示す顕名が原則として必要である。
3. 表見代理は、相手方が悪意でも常に成立する。
4. 公序良俗に反する契約でも、書面化すれば常に有効である。

答え・解説

正答：代理では、本人のためにすることを示す顕名が原則として必要である。

超簡単な解説：顕名がない場合は代理人自身の行為と扱われることがある。

要点：顕名

Q055 BL3-420

取引主体・法人・代理 / 意思能力 / 形式：4択

次のうち、「意思能力」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 相殺は、金銭債権同士でも絶対にできない。
2. 危険負担は、契約関係では一切問題とならない。
3. 意思能力を欠く状態で行った法律行為は、原則として無効となる。
4. 詐欺による契約でも、被害者は常に取り消せない。

答え・解説

正答：意思能力を欠く状態で行った法律行為は、原則として無効となる。

超簡単な解説：意思能力は行為の結果を判断できる能力をいう。

要点：意思能力

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q056 BL3-421

取引主体・法人・代理 / 無権代理 / 形式：4択

次のうち、「無権代理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 景品表示法は、企業の広告表示とは一切関係がない。
2. 代理権のない者がした代理行為は、本人が追認しなければ原則として本人に効力を生じない。
3. 意匠権は、企業秘密だけを保護する制度である。
4. 仲裁判断は、当事者に一切効力を持たない単なる助言である。

答え・解説

正答：代理権のない者がした代理行為は、本人が追認しなければ原則として本人に効力を生じない。

超簡単な解説：本人の追認の有無が重要である。

要点：無権代理

Q057 BL3-434

取引主体・法人・代理 / 行為能力 / 形式：4択

次のうち、「行為能力」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。
2. 特定商取引法は、企業間の株主総会手続だけを定める。
3. 著作権は、単なるアイデアそのものを常に保護する。
4. 代理人が契約すると、効果は常に代理人本人にだけ帰属する。

答え・解説

正答：制限行為能力者の制度は、判断能力が不十分な者を保護するために設けられている。

超簡単な解説：未成年者などの行為は取消しの対象となる場合がある。

要点：行為能力

Q058 BL3-435

取引主体・法人・代理 / 表見代理 / 形式：4択

次のうち、「表見代理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。
2. 未成年者がした契約は、どのような場合も取り消すことができない。
3. 時効は、期間が経過すれば裁判所が必ず自動的に適用する。
4. 保証人は、主たる債務者と無関係に常に無責任である。

答え・解説

正答：表見代理は、一定の外観を信頼した相手方を保護する制度である。

超簡単な解説：成立には外観・帰責性・相手方の善意無過失などが問題となる。

要点：表見代理

Q059 BL3-448

取引主体・法人・代理 / 未成年者 / 形式：4択

次のうち、「未成年者」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 実用新案権は、文学作品を保護する権利である。
2. 未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。
3. クーリング・オフは、すべての売買契約に無期限で認められる。
4. 不動産売買では、登記は第三者との関係で一切意味を持たない。

答え・解説

正答：未成年者が法定代理人の同意なくした契約は、原則として取り消すことができる。

超簡単な解説：単に権利を得るだけの行為など例外もある。

要点：未成年者

Q060 BL3-449

取引主体・法人・代理 / 復代理 / 形式：4択

次のうち、「復代理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 内容証明郵便を送れば、裁判をしなくても必ず強制執行できる。
2. 代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。
3. 使用者は、労働条件を一切明示しなくてもよい。
4. 申込みは、相手方に届かなくても必ず契約を成立させる。

答え・解説

正答：代理人がさらに代理人を選任する場合、復代理が問題となる。

超簡単な解説：復代理人は本人の代理人として行為する。

要点：復代理

ビジネス実務法務検定試験3級 - 取引主体・法人・代理

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q061 BL3-462

取引主体・法人・代理 / 法人 / 形式：4択

次のうち、「法人」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。
2. 時効は、期間が経過すれば裁判所が必ず自動的に適用する。
3. 労働組合は、使用者だけで構成される団体である。
4. 法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。

答え・解説

正答：法人は、法律上、権利義務の主体となることができる。

超簡単な解説：株式会社などの法人は契約主体となる。

要点：法人

Q062 BL3-463

取引主体・法人・代理 / 代表 / 形式：4択

次のうち、「代表」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 意匠権は、企業秘密だけを保護する制度である。
2. 強迫による意思表示は、被害者の保護対象にならない。
3. 制限行為能力者がした契約は、常に最初から絶対に有効である。
4. 会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。

答え・解説

正答：会社の代表者が会社を代表して契約した場合、効果は会社に帰属する。

超簡単な解説：代表取締役などは会社を代表する機関である。

要点：代表

Q063 BL3-476

取引主体・法人・代理 / 法人格否認 / 形式：4択

次のうち、「法人格否認」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 法人格が濫用される場合、例外的に法人格否認が問題となる。
2. 個人情報、本人に無断で常に自由に第三者へ売却できる。
3. 占有は、登記がなければ絶対に成立しない。
4. 権利者であれば、どのような目的でも権利行使は常に認められる。

答え・解説

正答：法人格が濫用される場合、例外的に法人格否認が問題となる。

超簡単な解説：会社と個人の分離が濫用されると、例外的な責任追及が問題となる。

要点：法人格否認

Q064 BL3-490

取引主体・法人・代理 / 代理 / 形式：4択

次のうち、「代理」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 実用新案権は、文学作品を保護する権利である。
2. 就業規則は、従業員が何人いても法律上作成できない。
3. 動産の所有権移転では、引渡しはどの場面でも無意味である。
4. 代理人が権限内で本人のために意思表示をすると、効果は本人に帰属する。

答え・解説

正答：代理人が権限内で本人のために意思表示をすると、効果は本人に帰属する。

超簡単な解説：代理は本人・代理人・相手方の三面関係で理解する。

要点：代理